

平成29年度 事業計画

学校法人 大阪成蹊学園

I 大阪成蹊学園の全体方針

1. 大阪成蹊学園の概要

大阪成蹊学園は1933年に創立された、84年の歴史を持つ総合学園です。現在、傘下に大阪成蹊大学、びわこ成蹊スポーツ大学、大阪成蹊短期大学、大阪成蹊女子高等学校、大阪成蹊短期大学附属こみち幼稚園を擁し、在籍者数約6800人、教職員数約490人、卒業生総数約11万人の伝統と実績のある学園です。

(1) 建学の精神

大阪成蹊学園の建学の精神「桃李不言下自成蹊」は、司馬遷の『史記』に由来する故事成語で、「桃や李は^{すもも}何も言わないが、その美しい花や実^みにひかれて人が集まってくるので木の下には自然と小道（蹊）ができる」という意味から、徳が高く尊敬される人のもとには多くの人が集まってくるという譬えです。このように徳があり人に慕われ信頼される「人間力」を備えた人を育てることを教育の基本目標としています。

(2) 行動指針 「『忠恕』の精神」

「忠」は誠実、「恕」は思いやりを表わし、誠を尽くし人の立場になって考え行動するという意味です。建学の精神を実践するにあたっての行動指針としています。

大阪成蹊学園では「教育の質保証」をめざし、教学改革を推進してきました。平成29年度は教学改革の具体的な実施、検証等を行ない、すべての学校、園において教育の一層の充実をはかっています。

また平成30年度には、大阪成蹊大学に大学院教育学研究科（修士課程）、教育学部中等教育専攻（英語教育コース、保健体育教育コース）、マネジメント学部国際観光ビジネス学科（国際キャリアコース、観光ビジネスコース）の開設など、学びの領域はますます充実する予定です。

2. 学園運営の基本方針

社会に期待され、信頼される教育機関として、学園が永続的に発展していくために、以下の基本方針を掲げ教員、職員が一丸となった教職協働体制を強化し取り組んでいきます。

- ①教育の充実に向けた改革の推進
- ②学生・生徒・園児への指導及び支援の強化
- ③学生・生徒の就職支援及び進学指導の強化
- ④高大連携の強化
- ⑤教職員のSD研修の強化
- ⑥地域連携の強化
- ⑦入試広報の強化
- ⑧ガバナンスの強化

⑨安定した財務体質の構築

⑩学園リスク管理の徹底

II 教育部門の基本方針

1. 高等教育機関

大阪成蹊大学、びわこ成蹊スポーツ大学、大阪成蹊短期大学の各高等教育機関においては、以下の4点を平成29年度事業運営における基本方針とする。

(1) 教育・研究の充実

3つのポリシーに基づいた教育実践と研究の促進及びグローバル教育の推進
各大学、短期大学においては、教育の目的を明確に定め、各学部・学科ごとに特色ある教育を展開する。

(2) 学生指導の強化

あいさつや身だしなみなどのマナー指導や、学生の修学、学生生活の充実に向けたきめ細かな学生指導を行う。

(3) 就職支援の強化

学生一人ひとりの就職希望・活動状況の把握、教職協働によるきめ細かな支援により、学生の就職希望率の更なる向上と就職内定率100%をめざす。

(4) 募集の強化

高校訪問の強化やオープンキャンパスの充実、各大学、短期大学の特色を明確に打ち出した広報ツールの作成等により、入学定員を確保するとともに志願者数を増加させる。また、新しい入試方法に対応する選抜方式の改革に取り組む。

基本方針の下、各校は以下の実施方針を掲げる。

(1) 「教育・研究の充実」に関する実施方針

- ア 社会人基礎力、就業力につながる「人間力」の強化
- イ 専門演習の系統的实施による専門的な力の強化
- ウ 日本語活用力とICTスキル教育も含めた初年次教育の充実
- エ 全学統一及び学科等の特色あるキャリア教育の充実
- オ アクティブラーニングの推進およびシラバス、授業評価の実施を通じた授業方法の改善
- カ 卒業研究・制作における指導体制と発表機会の充実
- キ 産官学連携の実施による学外連携の強化
- ク 教員間の連携・研修の実施による教育力の強化
- ケ カリキュラムポリシーに沿った教育課程のスリム化、効率化
- コ 高大連携接続プロジェクトによる学園内連携強化
- サ 研究活動の推進
- シ 英語教育およびグローバル教育の推進

上記を実現するため、3つのポリシーに基づいた以下の教育改革に取り組む。

- ア 人間力向上のためのPBM（パーソナル・ブランド・マネジメント）教育の定着
- イ 初年次教育の確立
- ウ キャリア教育の確立
- エ 専門演習・卒業研究・卒業制作指導の充実
- オ インターンシップの充実
- カ アクティブラーニングの推進
- キ 教育課程の抜本的な見直し
- ク 英語教育の改革
- ケ 適切な成績評価の実施
- コ シラバスの一層の充実
- サ 学修成果を発揮する機会の充実
- シ 授業評価アンケートの活用
- ス 非常勤講師との連携強化
- セ アドミッション・ポリシーに沿った入試方法の改革
- ソ 教員表彰の実施
- タ 学外連携授業の推進
- チ 正課外での学習環境の整備

(2) 「学生指導の強化」に関する実施方針

① 大阪成蹊大学、大阪成蹊短期大学

- ア PBM（パーソナル・ブランド・マネジメント）教育の定着
- イ アドバイザー教員制度、チューター制度の活性化による支援の強化
- ウ 学生支援課、学生支援センター、留学生支援センターの連携による支援の強化
- エ 学生指導、支援に関する情報共有の徹底
- オ クラブ、サークル、ボランティアなど課外活動の活性化
- カ 地域行事、学外イベントなどへの参加の促進

② びわこ成蹊スポーツ大学

- ア 学生の修学状況の随時把握による個別指導、支援の徹底
- イ クラブ、サークル、ボランティアなど課外活動の活性化
- ウ 学生指導、支援に関する情報共有の徹底
- エ 学習支援室、教職支援室を設け学生の授業外学習の習慣化を促す
- オ ラーニングコモンズの活用を促す各種プログラムの作成

(3) 「就職支援の強化」に関する実施方針

① 大阪成蹊大学、大阪成蹊短期大学

- ア 就業力を高めるインターンシップの促進
- イ 学部、学科の特色に合わせた就職支援の強化

- ウ 学内個別セミナーの充実
- エ 就職に生きる資格取得支援、SPI テストなどの就職対策の強化

② びわこ成蹊スポーツ大学

- ア キャリア意識醸成に向けた年次別のガイダンスの開催
- イ 就職希望種別の対策講座の開設
- ウ 企業との関係強化による就職先の開拓
- エ 大阪成蹊大学との合同企業セミナーの強化
- オ 学内個別セミナーの充実地域

(4) 「募集の強化」に関する実施方針

① 大阪成蹊大学、大阪成蹊短期大学

- ア 高大連携の充実・強化
- イ オープンキャンパスの充実
- ウ 学校の魅力を伝える広報ツールの強化

② びわこ成蹊スポーツ大学

- ア オープンキャンパスの充実
- イ クラブ単位で開催するチャレンジカップの新設
- ウ 選抜方法の多様化

2. 大阪成蹊女子高等学校

大阪成蹊女子高等学校は女子教育に特化し、キャリア教育と人間力の育成を強固に推進しながら、これからのグローバル時代に対応できる力を育むことをめざし、以下の4点を平成29年度事業運営における基本方針とする。

(1) 学校教育力の向上

基礎学力の向上に向けた教員の指導力強化、指導体制の強化、人間力（社会人基礎力）育成の向上、使える英語力の向上、学科・コースごとの特色ある教育内容の充実、学園内の連携授業の充実、ICTを活用した教育力の向上など、教育内容の一層の充実を図る。

(2) 生徒募集の強化

前年度より志願者は減ったものの、入学者数は府内の私立女子高校では8年連続で1位となったほか、募集定員360名に対する1213名もの志願者を集め志願倍率でも2年連続で1位となった。次年度以降の募集にむけては、女子校の優位さをアピールする強化策を検討するとともに、オープンスクールを通し募集の強化を行う。

(3) 高大連携の促進

大学、短期大学との教育、課外活動の連携強化。

(4) 国及び府からの研究指定校への取組み

平成29年度内のユネスコスクールへの加盟をめざす。

3. 大阪成蹊短期大学附属こみち幼稚園

こみち幼稚園は、楽しい「遊び」を通して、幼児の心情・意欲・態度を育みながら、「強く明るく考える子ども」を育成することを教育活動の目標とし、以下の7つの特徴を柱に充実した教育活動を行ないながら質の高い幼児教育を実践する。

(1) 心の教育・人権教育の充実

定期的に人権研修会を計画し、幼児の日々の生活から課題を見出し、意見交換を行なっていく。

必要に応じて、講師を招いたり、研修会に参加するなどして、新たな情報や指導のあり方を取り入れていく。

(2) 基本的生活習慣に関する指導法の研究

教員自身の生活の姿勢の見直し。

幼児が生活のルールやマナーに気付いていくような関わりや環境構成についての生活習慣に関する指導法の研究。

(3) 幼児の健康管理に関する保護者との連携強化

新たに「ほけんのしおり」を作成し、幼児の健康管理や安全管理についての理解を深める。また、保護者との共通理解も深めながら、より強い連携の体制をつくる。

(4) 食育に係る図書の充実

幼児の食育に関する図書を整備し、講話に加えて図書を通して、興味や関心のある視点から、学びを深める機会をつくる。

(5) 幼児の気付きや発見を促す保育実践の充実

日常生活の中で、様々な動植物とかかわる環境をつくと共に、教師が共感したり一緒に考えたりすることで、幼児の自然に対する興味や関心を積極的に促していく。

(6) その子らしさが生きる表現遊びの工夫

幼児一人ひとりの持ち味を理解し、その子に合った指導方法を工夫し、様々な方法で表現する楽しさが味わえるようにする。(1年を通して)

(7) 教員間の連携・交流の強化

幼児期の教育について、またこれからの幼稚園と大学・短期大学との連携のあり方について協議を深める。

Ⅲ 経営計画による達成目標

1. 平成30年度 学生募集

各学校とも募集人員を次の通りとする。

(単位：人)

学校・幼稚園名	入学定員	計	
大阪成蹊大学	マネジメント学部	240	602
	マネジメント学科	70	
	スポーツマネジメント学科	110	
	国際観光ビジネス学科	60	
	芸術学部	177	
	造形芸術学科	177	
	教育学部	180	
	教育学科 初等教育専攻	120	
	中等教育専攻	60	
大学院 教育学研究科	5		
びわこ成蹊スポーツ大学	スポーツ学部	360	370
	スポーツ学科	360	
	大学院 スポーツ学研究科	10	
大阪成蹊短期大学	生活デザイン学科	50	760
	調理・製菓学科	120	
	栄養学科	120	
	幼児教育学科	300	
	観光学科	90	
	グローバルコミュニケーション学科	30	
	経営会計学科	50	
大阪成蹊女子高等学校		360	
大阪成蹊短期大学附属こみち幼稚園		90	
学園合計		2,182	

2. 中期経営計画

平成 29 年度以降の中期経営計画は次の通りとする。

(単位:百万円)

費目/年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度		平成32年度		平成33年度			
	当初予算		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比		
教育活動収支	学生生徒等納付金	6,541	6,845	304	6,963	118	7,167	204	7,369	202
	補助金	1,547	1,576	29	1,561	▲ 15	1,551	▲ 10	1,595	44
	その他	303	290	▲ 13	295	5	216	▲ 79	214	▲ 2
	収入合計	8,391	8,711	320	8,819	108	8,934	115	9,178	244
	人件費	4,940	5,198	258	5,238	40	5,278	40	5,318	40
	退職金	25	26	1	26	0	△ 17	▲ 43	△ 7	10
	教育研究経費	2,341	2,410	69	2,496	86	2,515	19	2,566	51
	(うち、減価償却費)	(613)	(729)	▲ 116	(716)	13	(706)	10	(688)	18
	管理経費	684	676	▲ 8	660	▲ 16	658	▲ 2	650	▲ 8
	(うち、減価償却費)	(53)	(45)	8	(43)	2	(42)	1	(34)	8
	その他	1	1	0	▲ 1	▲ 2	0	1	1	1
	支出合計	7,991	8,311	212	8,419	123	8,434	26	8,528	120
教育活動収支差額	400	400	108	400	▲ 15	500	89	650	124	
教育活動外収支	受取利息・配当金	1	0	▲ 1	0	0	0	0	0	0
	借入金等利息	62	58	▲ 4	58	0	49	▲ 9	41	▲ 8
	教育活動外収支差額	▲ 61	▲ 58	3	▲ 58	0	▲ 49	9	▲ 41	8
経常収支差額	339	342	3	342	0	451	109	609	158	
特別収支	特別収入 (売却益、設備補助金等)	0	300	300	0	▲ 300	0	0	0	0
	特別支出(処分損)	68	349	281	0	▲ 349	0	0	0	0
	特別活動収支差額	▲ 68	▲ 49	19	0	49	0	0	0	0
基本金組入前当年度収支差額	271	293	22	342	49	451	109	609	158	

【平成 29 年度の教育環境の充実】

(1) 大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学

- ・大阪成蹊大学大学院の研究環境の整備
- ・PC教室の設備更新

(2) びわこ成蹊スポーツ大学

- ・フットサルコート 2 面の新設
- ・学生通学用駐車場の開設
- ・男子寮 (MUSASHI)、女子寮 (クレア堅田) の完備
- ・中央棟の新設及びトレーニング施設、ラーニング commons の新設
- ・陸上グラウンドの改修

(3) 大阪成蹊女子高等学校

- ・美術棟の新設 (美術教室及び食堂)

IV. 教育部門の具体的施策

1. 大阪成蹊大学

(1) マネジメント学部

① 教育・研究の充実

ア 人間力の強化

- ・ 専門演習、専門キャリア科目において社会人基礎力、就業力の向上を図る
- ・ グループ学習における主体性と協調性の育成
- ・ リーダーシップ研修の推進

イ 専門的な力の強化

- ・ 卒業研究指導に関するガイドラインに基づく指導の実施、徹底
- ・ 各種資格取得の奨励及び支援強化

ウ 授業方法の充実

- ・ 対話、グループワークを取り入れたアクティブラーニングの推進
- ・ 授業外学習促進のため課題提示の徹底

エ 産官学連携の推進

- ・ 連携先の新規開拓
- ・ 成果報告会の実施

オ 教員間の連携強化、研修体制の構築

- ・ 教学改革と関連したFD研修会の実施
- ・ 授業参観、勉強会の活性化
- ・ 研修会の実施
- ・ 学生の学習状況の情報交換の活発化

カ 教育の学内連携の強化

- ・ 英語関連、国際関連を中心とした学内連携授業の強化
- ・ スポーツマネジメント学科などでの学生連携授業の継続

キ 研究の推進

- ・ 科研費への申請の奨励

② 学生指導・学生生活支援の強化

- ・ 要支援学生に対する早期からの指導の実施
- ・ 学生カルテの記入項目見直しと履修指導の徹底
- ・ 課外活動の奨励
- ・ ラーニングコモンズを活用した基礎学力指導の推進

③ 就職率100%達成のための支援

- ・ 早期からの就職指導と単位取得状況の管理
- ・ 就職に直結するインターンシップの取り組み強化
- ・ 各種資格取得の推奨

④ 募集対策強化と入学定員の確保

- ・ オープンキャンパス企画の改善と実施

- ・高校訪問の早期開始
- ・入試区分による合格者数の見直しと留学生枠の見直し

(2) 芸術学部

① 教育・研究の充実

ア 人間力の強化

- ・キャリア教育でのPBLを活用した人間力・就業力の養成
- ・プロジェクト演習科目の見直しとコース横断型の課題解決型演習科目の設計
- ・スチューデントリーダーの育成を通じた学習指導体制の充実
- ・ラーニングコモンズを活用した基礎学力の向上

イ 専門的な力の強化

- ・初年次教育を通じた、基礎造形教育およびPCスキル教育の強化
- ・専門に応じた学外連携授業のコースごとの強化

ウ 授業方法の充実

- ・1年次からの課題解決型学習による早期からの社会人基礎力の育成
- ・適切な授業評価の実施として、パフォーマンス別ルーブリックの運用
- ・アクティブラーニングの全授業実施と振り返り法を使ったアウトプット習慣化の取組み

エ 産官学連携の推進

- ・キャリアデザイン2・3と専門演習との関係での学んだ力の展開と専門演習6・11での学外授業促進
- ・課題解決型インターンシップ科目の受講促進

オ 教員間の連携強化、研修体制の構築

- ・進級、卒業制作研究ガイドライン化と卒業制作研究連絡会によるコース横断的な指導体制の強化
- ・研修体制の強化と重要リスクに関する自己評価チェックリストの管理・運用体制の整備

カ 教育の学園内連携の強化

- ・併設校美術学科と連絡会の実施
- ・キャリア系連携科目の実施

キ 研究の推進

- ・学修成果ポートフォリオ研究の実施
- ・芸術学部共同研究の推進

ク 学部独自の施策

- ・平成30年度カリキュラムに向けた学部カリキュラムの改革
- ・社会連携事業推進による社会人基礎力の養成

② 学生指導・学生生活支援の強化

ア アドバイザー体制と全教員の連携による支援体制の強化

イ 学生カルテへと教職協働による支援の強化

- ウ 学生の個人活動への支援（個展、公募展への出品指導）
- ③ 就職率 100%達成のための支援
 - ア 教職協働による各コースの特色に沿った就職支援体制の確立
 - イ 就職先の新規開拓企業に対する働きかけや個人面談の実施による学生の能力・志向に応じた就職支援
 - ウ 保護者との連携の強化
 - エ 就職本部の支援の活用とキャリア授業での連動性の向上
 - オ 新キャリア教育授業受講者の卒業生成果と課題の追跡及び検証
- ④ 募集対策強化と入学定員の確保
 - ア 学生の活躍を中心とした広報活動の実施
 - イ 各コースにおける特色の明確化
- ⑤ 学部独自の施策
 - ア アート&デザインコンペティションなどによる学部広報の推進
 - イ 卒業制作展等発表機会、公募、コンペ応募の強化による学部専門教育の充実と支援推進
 - ウ 写生大会などでの地域連携の推進
 - エ キャリア教育テキスト作成と支援体制強化
 - オ 官学連携、産学連携の継続
 - カ 留学生等の受け入れ、指導を通じた教育グローバル化の推進

(3) 教育学部

① 教育・研究の充実

ア 人間力の強化

- ・問題解決力、協調性、コミュニケーション力の育成を図るプロジェクト活動の実施
- ・専門職業人としての自覚と実践力を高める教育インターンシップの実施
- ・教職に携わる者としての見識をベースに、信頼され豊かな人間性を育成する実習の実施

イ 専門的な力の強化

- ・「大学での学びとキャリアを考える」、「基礎ゼミ」でのアクティブラーニングの実施と学修課題の指導
- ・教員間の連携体制の強化

ウ 授業方法の充実

- ・アクティブラーニングの拡大と授業、保育における実践的指導力の強化
- ・見学実習や教育インターンシップ、介護実習、教育実習など各種実習を通じた学生の省察する力と実践力の強化

エ 産官学連携の推進

- ・「いばらき光の回廊冬のフェスティバル」などプロジェクトチームを中心とした協働力、運営力等の向上の取り組み

オ 教員間の連携強化、研修体制の構築

- ・FD研修会の開催（年2回）
- ・見学実習、教育インターンシップ、介護実習、教育実習、教育ボランティアなどの実践的な指導と、大学での学びとの連携に関する議論の活性化

カ 教育の学園内連携の強化

- ・教育研究支援センターとの連携の具体化と機能化
- ・幼児教育に関するガイダンスや講義の具体化

キ 研究の推進

- ・学内共同研究費用の推奨
- ・実習校・園を中心とした小学校・幼稚園・保育所との共同研究の推進
- ・こども教育研究所と共催のパートナーシップ事業の充実と成蹊教育研究会の開催

ク 教員採用試験対策の実施

- ・教育人材育成センターと連携した講座の開設
- ・近隣府県の採用試験概要の調査、収集及び学生への周知

② 学生指導・学生生活支援の強化

- ア チューターによる面談を活用した学生の学習、生活実態の把握
- イ 課外活動企画、参加への重要性の理解強化と積極的参加にむけた指導の実施
- ウ 教育ボランティアの参加の促進

③ 就職率100%達成のための支援

- ア 初年次教育を通じた教職への就職意識の醸成
- イ 教員採用試験対策指導の強化（1次対策、面接指導等）
- ウ 自主学習の習慣化及び学習の場の提供および指導の実施
- エ 就職部との連携指導の実施

④ 募集対策強化と入学定員の確保

- ア オープンキャンパスへの誘引強化による高校訪問の実施
- イ 効果的な広報資料の作成
- ウ 高校の進路ガイダンスへの参加
- エ 併設校教育特進レーンなどとの連携の強化

⑤ 学部独自の施策

- ア 教育人材育成センター、教員養成カリキュラム委員会、子ども教育研究センターと学部の連携強化による学生支援指導の充実
- イ 学生による大学内企画プロジェクトの実施（音・図・体）
- ウ 大学院設置、中等教育専攻開設にむけた学部体制の確立

2. びわこ成蹊スポーツ大学

① 教育・研究の充実

ア 人間力の強化

- ・フレッシュマンキャンプや雪上実習、水辺実習などを通じた団結力、忍耐力などの育成

イ 専門的な力の強化

- ・卒業研究の指導体制・基準、強化基準等の検証と見直しによるグレードアップ
- ・カリキュラムマップの改良、科目の設定、検証を通じ教育課程の編成に取り組む

ウ 授業方法の充実

- ・アクティブラーニング授業の推進
- ・プレメントテストの多用等によるスタディスキルの向上等に取り組む

エ 産官学連携の推進

- ・ジュニアアスリートの育成や COC+の取組み推進による滋賀県との連携強化
- ・オリンピック、パラリンピック、滋賀国体、関西ワールドマスタースなどへの積極的な関与

オ 教員間連携・研修体制の構築

- ・教員間での授業研究会の実施、FDによる教育・研究スキルの向上

カ 学園内連携の強化

- ・高大連携会議の活性化による併設高校との連携強化

キ 研究の推進

- ・アスリート支援に向けた実践研究の推進
- ・科学研究費補助金獲得に向けた研修会の開催、研究倫理体制の強化

② 学生指導・学生生活支援の強化

ア 教育相談会による保護者との連携の強化

イ クラブ顧問やコーチなど指導体制の強化による課外活動の活性化

③ 就職率 100%達成のための支援

ア 年次ごとのガイダンスによるキャリア意識の醸成

イ 教職協働での支援体制の構築と教員採用試験対策の拡充

④ 募集対策強化と入学定員の確保

ア 客員教授の講演など種々の企画、イベントの実施によるオープンキャンパスの充実

イ 高等学校との親疎度向上のための担当校制の推進

ウ 母校訪問の推進

⑤ 学部独自の施策

- ・ダブルディグリーの推進、英語圏大学との連携推進、海外大学等との人的交流の促進等、大学のグローバル化の取組みを推進
- ・大学職員の質向上を図るため SD 研修の強化

3. 大阪成蹊短期大学

① 教育・研究の充実

ア 人間力の強化

- ・アクティブラーニングによる学生の主体性・協働意識の向上を促進
- ・成蹊基礎セミナーにおいてディベートやプレゼン能力向上を図り、他者理解や表現力を養成
- ・実習科目におけるグループワークにより、協働する力を養成
- ・卒業研究（制作）、各種コンテストを通じて総合的に人間力を養成

イ 専門的な力の強化

- ・主要科目担当教員間の連携を深め学生の理解向上の促進
- ・実習室の開放による授業時間外学習の確保
- ・ルーブリックの活用による専門的な力の養成
- ・資格取得の奨励と支援の強化

ウ 授業方法の充実

- ・全科目でのアクティブラーニングの取組み
- ・振り返り学習等、学習時間の確保のための課題の提示

エ 産官学連携の推進

- ・公官庁、企業等との連携授業の継続と新規の開拓

オ 教員間の連携強化、研修体制の構築

- ・非常勤講師との定期的連絡会の開催（月1回）
- ・学生の学習実態の把握によるきめ細かな指導の徹底
- ・授業の円滑運営のため実験実習担当助手への研修強化
- ・同一科目、つながりのある科目等担当者間での事前協議の徹底、公平な評価の取組強化

カ 教育の学園内連携の強化

- ・併設大学、高校及び学内他学科との共通する科目間での連携強化

キ 研究の推進

- ・学科内外教員との共同研究の奨励
- ・科学研究費補助金等学部資金獲得の強化

ク 短大独自の施策

- ・入学前教育の充実
- ・卒業研究・作品集の制作
- ・卒業研究の導入、必修化等の検討
- ・教育課程の見直し

② 学生指導・学生生活支援の強化

- ・アドバイザーによる個別指導の強化
- ・学生部、非常勤講師等との連携による学生実態の把握と対応（面談等）の徹底
- ・保護者との連携強化

③ 就職率100%達成のための支援

- ・実習先との親密度強化による就職の活性化

- ・就職部との連携強化
 - ・個々の学生に応じた個別指導の徹底
 - ・キャリア授業での就業意識の向上促進
- ④ 募集対策強化と入学定員の確保
- ・ホームページによる情報発信の活用化
 - ・高大連携、高校訪問、オープンキャンパスの充実等による志願者増
- ⑤ 短大独自の施策
- ・グローバル教育プログラムの充実
 - ・FD 活動の活発化

4. 大阪成蹊女子高等学校

(1) 教育の充実

①学力向上に向けた教員の指導力教科

- ア 教員評価育成制度による全教員の自己点検の継続と自己評価による教科指導力の改善の促進
- イ 制度の課題点検の実施
- ウ 全教科での研究授業の継続実施するにあたり、研究授業の指導助言を活用した研究授業のレベルアップの取組み
- エ 優秀教員表彰制度を継続実施と、新規表彰者の褒章の更なる充実による授業改善の意欲の向上

②学力の定着に向けた指導体制の強化

- ア 新入生全員を対象とし、入学前学習として中学校学習内容の復習を行うICT活用の新規実施
- イ 1年生の基礎学力補充として、国・数・英の3科目で年間を通じた放課後の補習授業(「成蹊ゼミ」と称する)実施

③人間力(社会人基礎力)育成の向上

- ア 全学年で実施する人権学習の体系的な充実を図り、人権講演会の効果的活用。
- イ 本校の特色であるキャリア教育を担う科目の「キャリアデザイン」及び「ホスピタリティ」での人間力の育成
- ウ 本校の「いじめ防止基本方針」に基づき実施する「いじめアンケート」の実施による、いじめの未然防止。

④グローバルなキャリア教育の推進とユネスコスクールの加入

- ア 台湾の金陵女子高級中学との第2回国際交流事業、及びTOEIC検定対策付オーストラリア語学研修の更なる充実
- イ アメリカ海外キャリア研修の対象の拡充と円滑な運用
- ウ コース単位での全海外修学旅行への変更と円滑な運用
- エ 国内外のユネスコスクール(特に小学校)との連携のプランニングの推進
- オ グローバル教育を推進する学校設定科目として「グローバルスタディ」の2年生全コース開講
- カ 活発な海外からの短期留学生の受け入れ

⑤ 使える英語力の向上

- ア リスニング・スピーキングを積極的に取り入れた「使える英語」へのシフトの徹底
- イ 3年生を含む全学年でのGTEC実施と、オーストラリア語学研修とあわせたTOEIC講習の更なる充実
- ウ 放課後の学内英会話教室「English*CELL*」の質と量の充実と、受講生対象のGTECスピーキングテストの実施
- エ 少人数展開でのALTを活用した授業の2年生全コース実施。

⑥学科・コースの特色ある教育内容の充実

- ア キャリア進学コース：多様な生徒の進路保障、併設大学・短大との連携の充実
- イ 幼児教育コース：基礎学習の定着、ピアノ教育の更なる充実、幼教ミュージカルの募集戦略への転換
- ウ 美術科：円滑な運営、生徒募集の強化、美術コンペティションでの更なる活躍

- エ キャリア特進コース：難関大学合格者の輩出、新設の教育特進レーンの高大接続の計画
- オ スポーツコース：運動部加入義務の解除やスカラシップの見直し等による内部進学率の向上

⑦学園内の高大・高短連携授業の充実

- ア 本校の特色ある科目「グローバルスタディ」、「キャリアデザインβ」で学園内連携授業の実施
- イ 平成 28 年度設置された各教育課題の学園内高大接続プロジェクト会議の提言を受けた、併設大学との連携授業の新たな開始

⑧ I C Tを活用した教育力の向上

- ア 専任教員 3 名による情報教育委員会の設置と、教員研修や情報端末の管理の充実
- イ ネット型の 40 インチ液晶モニターの 2 年生、3 年生への新規設置と教科指導での多角的な活用の検討
- ウ L I N E Sドリルのメンテナンス等管理の円滑な推進

(2) 生徒募集強化のための施策

- ① オープンスクールの更なる募集力・広報力のスキルアップ
- ② 各コースでの募集戦略の実施
- ③ ホームページのリニューアルとスマホ対応化

(3) 内部進学率の向上

- ① 併設校生徒対象オープンキャンパスでの企画内容の充実への協力
- ② 次年度の学園内連携授業の更なる拡大

(4) 教員の評価育成と管理体制

- ①評価育成システム及び授業評価アンケートの実施と効果の向上
- ②生徒指導力の改善
- ③いじめ防止等のリスク管理

(5) 中途退学の防止と課外活動の活性化

- ①中途退学・休学の防止
- ②課外活動の活性化に関する指導強化

(6) 国及び府からの研究指定

- ①平成 29 年度内のユネスコスクール(A S P net)の加盟審査を合格
- ②国内外のユネスコスクールと連携した国際教育、平和教育のアクティブラーニングでの展開

5. 大阪成蹊短期大学附属こみち幼稚園

(1) 保育活動における内容の充実

① 特色ある保育内容の充実

ア 心身の健全性をめざした保育内容の充実

- ・音楽、造形表現、運動などの遊びや自然体験学習の強化
- ・動植物と関わる環境の整備
- ・指導講師の新規開拓、確保

イ 健康に関するプログラムの実施

- ・家庭を巻き込んだ食育の実施

ウ 安全プログラムの実施

- ・警察署、消防署による教職員の安全研修と避難訓練の徹底
- ・地震や津波発生など緊急時の安全確保、連絡体制の確立と保護者への周知

エ 人権に関する教育

- ・人権教育の実施

(2) 学園内での効果的な連携の推進

① 大学・短期大学教員による連携プログラム

ア 短大教員によるスポーツ指導

イ 芸術学部教員による絵画、造形指導

ウ 調理・製菓学科による PTA 料理講習会の実施

(3) 地域連携の強化

① 近隣教育機関との活動

ア 幼児教育相談の開催

イ 東井高野小学校への年長児の見学や井高野中学校ふれあい体験の受入れなど、近隣学校との活動

② 地域施設、団体との活動

ア 介護福祉施設「エスペラル井高野」への慰問、「井高野地域敬老の集い」への参加

イ 地域子育てサークルへの園庭貸出し

ウ 吹田市保幼連合会への出席

(4) 募集の強化

① 3歳児クラスの定員確保

ア 新たな子育て世帯の開拓

イ 幼稚園見学デーの内容充実（4・5・6・7月実施）

- ・参加者数の増加（100世帯を目標に）

ウ 教育内容の充実と在園児保護者への周知強化

エ 園行事の公開

オ 日常的な園見学の積極的な受け入れ

② 2才児クラスの充実

ア 年間40回の受入実施

- イ 募集人数を 120 人に設定
- ウ 未就園児向け行事の早期からの積極的な告知
園児募集に関する情報の保護者への積極的な発信、コミュニケーション、2才児クラスの充実、園児募集ポスター掲示、チラシ配布、ホームページ公開、一斉メール配信、ダイレクトメール発送
- エ 入園説明会、給食試食会の実施